

# 第3回 市長と語るまちづくり懇談会 次第

日時：令和3年3月23日（火）14時～

場所：周南市役所 多目的室

テーマ「安心して子育てができるまちづくり」

参加団体（3団体）

- ・一般社団法人 HapimamaPLUS（子育てしやすい街やコミュニティづくり、女性の活躍を応援する団体）
- ・周南市母子保健推進協議会（子育てに関する身近な相談役として活動する団体）
- ・周南地域子育て支援ネットワーク 虹色ねっと（子育てと子育て支援をサポートする団体）

1. 開 会 14:00
2. 懇談会
  - ・市長あいさつ
  - ・団体紹介・提言等
3. 閉 会 15:30

提言内容一覧表

第3回「市長と語る まちづくり」懇談会

テーマ 「安心して子育てができるまちづくり」

| No | 団体名  | 提 言 内 容   |
|----|--|---|
| 1  | H<br>a<br>p<br>i<br>ー<br>m<br>般<br>a<br>社<br>m<br>団<br>a<br>法<br>P<br>人<br>L<br>U<br>S | <p><b>共感できる仲間作り</b></p> <p>安心して子育てするには共感できる仲間づくりと活躍できる場所作りが大切だと思います。周南エリアは通勤族も多く、また核家族や共働き世帯も多くなっており、また今年はコロナの影響もあり、横の繋がりが作りにくくなっています。子どもが小さいとなかなか自分の為に時間を使うことも母親は難しく、引きこもりがちになりやすい。特に知り合いもない通勤族の妻にその傾向が強いと思われます。通勤族はいずれ周南から離れてしまう人ではあるが、今発見できていない周南の魅力や、他市にあってよかった部分など建設的な意見も広く持っていると思います。こういった声を取り上げることで、より良い子育て環境づくりのきっかけになるのではないかと考えます。周南市が移住促進や関係人口を使ったシティプロモーションを行っているものに、もう一歩進めて彼女たちを巻き込んだ仕組みづくりのサポートを行うような機関を作ってはどうか？</p> |
|    |  | <p><b>居場所づくりと情報の共有</b></p> <p>周南市内には各所でサークル活動などが行われています。ですが多くは市民センターなどに置かれた手書きのチラシ、もしくは個人のSNSで参加者を募集しています。また地域を担当している母推さんを知らない子育てママも多くいます。せっかく集まる場やサポートをして下さる人がいるのに情報が共有できていないのはもったいないです。今の子育て世代にあわせた情報共有の仕組み作りが必要ではないでしょうか？</p>  |
| 2  | 周<br>南<br>市<br>協<br>議<br>会<br>母<br>子<br>保<br>健<br>推<br>進                               | <p><b>子育て世代の自治会加入促進に向けた取組</b></p> <p>子育ての孤立化が進むなか、地域の見守りを受けながら、安心して子育てできるまちづくりが重要である。特に災害時は、配慮を必要とする妊産婦や乳幼児を近隣住民や地域で支え合うことができるよう、日ごろから自治会単位で住民同士のコミュニケーションがとれることが望ましいと考える。</p> <p>しかし、自治会の加入率は低下しているため、子育て世代の自治会の加入を促進するような魅力ある取り組みを行い、「ここから、こころつながる。周南市」をめざしてはどうか。</p>   |
|    |  | <p><b>親子で楽しめる屋内外の遊び場の充実</b></p> <p>母子保健推進員として活動するなかで、親子で遊べる屋内の遊び場が欲しいとの意見があった。子育て支援センターのさらなる情報発信、さらにいつでも自由に使える安全な場所があると良いのではないかと。</p> <p>また、公園の遊具が錆びていることがあるため、細やかなメンテナンスを行うことで、遊びを通じた親子のふれあいの充実に図ってはどうか。</p>   |
| 3  | 周<br>南<br>地<br>域<br>子<br>育<br>色<br>支<br>援<br>と<br>ネ<br>ッ<br>ト<br>ワ<br>ー<br>ク           | <p><b>教育について</b></p> <p>子育ては小さい時で終わりではなく、子どもが大人になるまで続く。大きくなるほどかかるお金も大きくなる。学校の教材費や給食費を無償(和木町)にしたり、大学の学費の補助金を出す制度を作り(卒業後周南市で何年以上働けば返金免除、半額返金等)先のお金の不安をなくす。また、教育の世代間連鎖もあったり、低所得者は塾等に通わせることが出来ないとな学力も下がったりする。学校だけで足りない学習を元教職員や、高校生、大学生ボランティアの先生を活用し、低額や無料で学習出来る場所を作る。</p>   |
|    |  | <p><b>異世代交流</b></p> <p>核家族化や兄弟人数も減って異世代間での交流が減っている。学校内広場や子育て支援センターなどを利用して、いろんな世代間で交流をして、地域とのつながりを作り、地域みんなが子育てをしていく安心感を作る。子育て世帯は、少し先の子どもの成長を知ることができる。年齢の高い子どもは、将来の自分の子育てを想像したり、高齢者は子どもに元気をもらったりできると思う。</p>   |